**主 の エ ル サ レ ム 入 城**

2020･1･17版

共同式文検討委員会

（「主の受難」の主日礼拝の始めに＝前奏に引き続きこの典礼を行う。この日は式文の「招き」はこの典礼に替える。）

**御名による祝福**

司式：父と子と聖霊のみ名によって

会衆：アーメン

**はじめに**

司式：私たちの救い主が来られます。主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。

会衆：天には平和、いと高きところには栄光。

司式：これは、主のみわざ。

会衆：わたしたちの目には驚くべきこと。

**特別の祈り**

司式：（祈りましょう。）憐れみ深い神様、あなたは御子、主イエス・キリストをこの世界に遣わし、御子は、福音を告げ知らせ、十字架の苦しみと死によって私たちの救いを実現するため、エルサレムに入られました。私たちが罪を悔い改め、私たちの心に救い主を迎えることができますように。そして、主の受難を心に刻み、復活の祝いに至らせてください。あなたと聖霊とともにただ独りの神、永遠の支配者、御子、主イエス・キリストによって祈ります。

会衆：アーメン

**主のエルサレム入城のみことば**

司式：主のエルサレム入城を告げるみことばを聴きましょう。

（A年　マタイ２１章１～１１、B年　マルコ１１章１～１１、C年　ルカ１９章２８～４０）

**結び**

司式：主の名によって来られる方、王に、祝福があるように。

会衆：天には平和、いと高きところには栄光。

司式：主の平和のうちに進みましょう。

会衆：いと高きところにホサナ

**つどいの歌**

＊一同は、賛美歌の前までの典礼を礼拝堂の入り口で行い、賛美歌を歌いながら入堂してもよい。あるいは、司式者はここまで礼拝堂の入り口で司式をして、賛美歌を歌いながら入堂してもよい。

＊賛美歌を歌いながら、（棕櫚・フェニックス・ロベ・ソテツなど、あるいは地域の特色ある植物の）枝を振ってもよい。なお、この日の礼拝で用いた枝は、翌年の灰の水曜日の前に燃やして、その礼拝で用いることができる。

**つどいの祈り**

司式：（祈りましょう。）＊ここで「主の受難」の主日のためのつどいの祈りを行う。

会衆：アーメン

（以下、式文の「みことば」に進む。）